

日本地域学会ニューズレター

平成 30 年 no. 1

平成 30 年 2 月 28 日

目 次

I. 会長挨拶	... 2
II. 第 55 回日本地域学会年次大会(平成 30 年 10 月 6~8 日)のご案内 論文報告の募集, シンポジウムについて	... 3
III. 総会報告 立命館大学で開催された日本地域学会総会についての報告	... 4
IV. 理事会報告 平成 29 年度第 5-8 回	... 5
V. 委員会報告	... 7
1. 優秀発表賞選考委員会(受賞者の紹介)	
2. 機関誌編集委員会(第 58 回についての報告)	
VI. 会費納入のお願い 平成 30 年度会費請求額, 会費早期納入の特典, Web 会員について	... 8
VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ	... 9
VIII. 学会賞候補者推薦の募集	... 10
IX. 会員の移動	... 11
『地域学研究』バックナンバー申込書	... 13
正会員入会申込書	... 14

注意：平成 30 年度会費請求書が同封されています。

(納入期限 平成 30 年 3 月末日)

I. 会長挨拶

日本地域学会会長
細江守紀

会長挨拶—人口減少社会と地域再生—

2017年度の全国大会は立命館大学（衣笠キャンパス）で行われました。そのおりの公開シンポジウム「歴史都市の保全と継承政策」では冷泉為久氏（冷泉家 第25代当主）の基調講演が行われました。京都はいうまでもなく世界的な歴史都市であり、この都市と文化を継承していくには並大抵の努力では難しく、それを支える大きな力が必要であることが理解できました。基調講演のなかで冷泉氏は「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」と言われました。その言葉がしばらく耳から離れず、考え込んでしまいました。私の専門である経済学の分析対象はアダム・スミス以来、合理的利己心をもった一般の人々です。合理的愚者などとも言われます。スミスは、そうした人々の私的活動が社会的に望ましい成果をもたらすと主張したので、我々はなにかほっとした気持ちになり、なぜそうなのか、その主張の背後のメカニズムを解くために200年以上格闘してきました。また、一方でスミスは道徳的感情の重要性を指摘し、利己心の背後にある共感する心に注目してきました。しかし、この共感が社会のメカニズムにどのような影響をもつのか、また、共感そのもののメカニズムはなんなのかはあまり研究されてきていません。ゲーム理論や最近の行動経済学はその研究を進めていますが、まだ納得的な成果が得られているとはいえません。市場経済社会を説明するとき、フォーマルな企業を中心とする市場メカニズムとその基底にある人々の感情や規範のメカニズムがどのように関連しているのか理解することは大変重要なことだと思われま

す。現在、人口減少、高齢化の急速な進行によって限界集落となっていることが国土交通省と総務省の合同調査で明らかになっています。6万以上の集落が該当し、全人口の8.7%にあたるということです。また、日本地域創生会議は、2040

（平成52）年に若年女性の流出により全国の896市区町村が「消滅」の危機に直面すると予測しています。過疎問題は高度成長時代になって注目され始めたが、長期の経済不況、高齢化などによって限界集落問題が顕在化しています。こうした集落での人々の生活を維持するためには医療、交通、祭祀などについて集落の自治的な力では十分ではなく、今後、そうした集落では生活基盤が失われていく可能性がたかいでしょう。

こうした地域に対して国はすでに「過疎地域自立促進特別措置法」によって集落移転を促す施策を講じているが、あまり効果を上げていないといわれています。経済学的な観点からストレートに言えば、そうした集落は中心集落に移転していくことが望ましい。集落での生活を支えるために多額の税金を使うことは効率的でなく、むしろ、中心集落への集約化によって、より安心な生活ができ、また、行政コストも節約されます。これはコンパクトシティ化といってもよい。ただし、集落の人々に納得して移転してもらうことは簡単ではないでしょう。人々の納得を得るためには、人々がもっている価値観、幸福感には十分な配慮が必要になります。また、その集落をから出て行った家族のサポートと理解がどの程度あるかも重要な問題でしょう。

だが、そもそも大局的＝歴史的にみると、限界集落の発生は、農山村のこれまでの拡大は日本の人口が約2千5百万人といわれる江戸時代初期から昭和に至る長期的な経済発展＝人口増加に主要な原因があるといえてよいでしょう。その意味では、今後の農山村地域の縮小はもとに戻るプロセスと考えることができます。その撤退プロセスにおいて農山村地域の再生にはどのように展開されていくべきかまだ答えは見つかっていません。

II. 第55回日本地域学会年次大会(平成30年10月6~8日)のご案内

平成30年度(2018年)日本地域学会第55回年次大会は、北海学園大学において下記の通り開催されます。会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日: 平成30年10月6日(金)~8日(日)

開催校: 北海学園大学

会場: 北海学園大学豊平キャンパス

〒062-0911 北海道札幌市豊平区旭町4丁目1-40

大会準備委員会: 委員長 鈴木聡士(北海学園大学工学部・教授)

セッション:

共通論題

- a) 地域経済・地域雇用
- b) 産業集積・情報
- c) 環境評価・環境政策
- d) 地域環境・地球環境
- e) 国際経済政策
- f) 交通・コミュニケーション
- g) 経済分析・モデル分析
- h) 意識分析・行動分析
- i) 地方分権・地方財政・道州制
- j) 持続可能都市・地域システム
- k) 都市再生・地域再生
- l) 沿岸域管理・海洋政策
- m) ツーリズム
- n) アジア経済

一般論題

立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の課題すべて

公開シンポジウム:

テーマ 人口減少社会の地域づくり

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望され

る方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務局へe-mailで応募して下さい。応募締切は平成30年5月31日(木)です。なお申込書は4月より学会のホームページからダウンロードできます。

[論文報告] 応募の必要事項

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属(複数の場合には発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract 和文(700字以内)および英文(200words以内)の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mailアドレス等
7. 希望討論者2名(会員に限る。必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

[特別セッション編成] 応募の必要事項

1. セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要(和文300字以内、英文100words以内)
2. 座長(1-2名の会員) 氏名、所属、同英文表記
3. 1セッション当たり3-4編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について1名でも可。
4. 応募責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mailアドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募は次の日本地域学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

水野谷研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jrsai.jp

メールによる問合せ: sec@jrsai.jp

応募申込書の入手: <http://jrsai.jp/ja/>

年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレターおよび学会 HP にて公表する予定です。

学会 HP: <http://jsrsai.jp/ja/>

Ⅲ. 総会報告

平成 29 年度総会が、去る平成 29 年 10 月 7 日 12 時 20 分より、第 54 回（2017 年）年次大会の会場である立命館大学で開催されました。細江会長（熊本学園大学特任教授）挨拶の後、同会長を議長として審議および報告が行われました。つづく学会賞授与式では、酒井泰弘委員長からの経過報告の後、細江会長より受賞者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
今期新入会員 41 名、退会希望者 34 名について承認された。
2. 平成 28 年度の事業報告の承認
資料通り承認された。
3. 平成 28 年度の収支決算の承認
収入について、年次大会（新潟大学）実行委員会からの開催費返金等により予定よりプラスとなったことなどが説明され、資料通り承認された。
4. 平成 30 年度の事業計画の承認
資料通り承認された。
5. 平成 30 年度の収支予算の承認
資料通り承認された。
6. 平成 29 年度の収支予算（修正案）の承認
機関誌 48 号の出版費用が安価となる一方、アルバイト代の増加（理事会で承認）があったことが説明され、資料通り承認された。
7. 名誉会員の承認および楯の授与
第 33 代藤岡明房氏、第 34 代 Antonie S.

Bailly 氏、第 35 代 Amitrajeet A. Batabyal 氏を名誉会員とすることで承認され、楯の授与が行われた。

8. 修士論文賞の呼称（熊田禎宜賞）2018 年終了の承認
理事会から終了ではなく延長の案が提出され、2019 年から 2023 年度まで延長で承認された。
 9. 第 55 回（2018 年）年次大会の開催地、開催校等の承認
2018 年 10 月 6 日（土）～10 月 8 日（月）の日程で、北海道札幌市の北海学園大学豊平キャンパスにて開催することが承認された。
 10. 第 56 回（2019 年）年次大会の開催地、開催校等の取扱いの承認
西日本の大学と開催の交渉を行うことが承認された。
 11. その他
特になし。
- #### 報告事項
1. 『地域学研究』第 47 巻の編集
英文誌の創設に伴い今後は 1 巻毎 2 号の発刊となり、2 号は今年度中の発刊を予定していることが報告された。
 2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について
No.2 が 12 月ごろ発刊予定であることが報告された。
 3. RSAI の動向
ヨーロッパ大会がフローニンゲンで 9 月、アメリカ大会がバンクーバーで 11 月、世界大会がインドのゴアで 5 月末に開催予定であることが報告された。
 4. PRSCO の動向
2020 年ホーチミン開催、2021 年日本大会は京都で検討中であることが報告された。
 5. その他
特になし。

IV. 理事会報告

平成 29 年度 日本地域学会 第 5 回理事会

日 時：平成 29 年 10 月 6 日（金） 17:15-19:45

場 所：立命館大学衣笠キャンパス歴史都市防災

研究所地階カンファレンスホール

出席者：細江，高橋，萩原，水野谷，櫻井，洪澤，氷鮑，内田，浅見，阿部，石橋，鐘ヶ江，木南(莉)，國光，鈴木，多和田，徳永，宮田，柳原の各理事（但し松本，岡村，近藤，斎藤，佐々木，戸田，中山，野崎，福井，三友，吉田の各理事より委任状付託；以上理事 30 名出席）オブザーバとして白井，酒井，藤岡の各顧問，木南(章)機関誌編集委員会副委員長，内藤，黛，森岡の各幹事；佐橋事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

新入会員については資料記載の 15 名のほか，今大会で発表予定の 1 名を加え全 16 名，退会希望については全 5 名を承認した。

2. 平成 29 年度第 54 回年次大会の運営

事前告知で未定であった討論者の追加および発表数等の報告が行われた。総会次第について各担当者の確認が行われたほか，議題に挙がっている「修士論文賞の呼称（熊田禎宜賞）の終了の承認」については，終了ではなく延長案を理事会から提出し総会で承認を受けることとした。※呼称については 5 年が区切りとはされているが，延長を妨げるものではないため。

3. 年次大会次期開催地・開催校について

2018 年 10 月 6 日（土）～10 月 8 日（月）の日程で，北海道札幌市の北海学園大学豊平キャンパスにて開催する。

4. 年次大会次々期開催地・開催校について

西日本での開催を検討する。

5. H29 年度再修正予算について

支出において，秘書増員に伴うアルバイ

ト代を増額し，機関誌出版費用を減額する（想定より安価となったため）ことで承認された。全体としての支出合計には変化がない。

6. 年次大会開催費支出ガイドラインについて

「日本地域学会年次大会開催費等に関する規程」第 5 条における「実行委員会が大会開催の準備及び当日の開催のために要した費用」を定義するものとして，「日本地域学会年次大会開催費支出に関する申し合わせ」を本日（平成 29 年 10 月 6 日）付で制定，今 54 回大会から適用することで承認された。

7. その他

琉球大学国際沖縄研究所からの要請を受け，同研究所の全国共同利用・共同研究拠点化の申請に向け，文部科学省宛に設置を要望することが承認された。

報告事項

1. 平成 29 年度理事会（持ち回り）第 4 回

日本不動産学会主催セミナーの後援名義使用について，異議なく承認されたことが報告された。

2. 『地域学研究』第 47 巻の編集

『地域学研究』47 刊行進捗状況についての報告がなされた。

3. New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives について

既刊及び刊行予定タイトルが報告された。

4. RSAI の動向

ヨーロッパ大会がフローニンゲンで 9 月，アメリカ大会がバンクーバーで 11 月，世界大会がインドのゴアで 5 月末に開催予定であることが報告された。

5. PRSCO の動向

2020 年ホーチミン開催，2021 年日本大会は京都で検討中であることが報告された。

6. その他

RSAI に関し，中国セクションに関しての報告がなされた。

平成 29 年度 日本地域学会 第 6 回理事会 (持
回り)

日時：平成 29 年 10 月 16 日 (月) 17:00

議題：・資産評価政策学会 2017 年度秋の研究
大会・シンポジウム

「不動産価値評価における AI 利用の可能
性」

・後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に
付し、承認が得られた。

平成 29 年度 日本地域学会 第 7 回理事会 (持
回り)

日時：平成 29 年 10 月 25 日 (月) 12:00

議題：琉球大学国際沖縄研究所より依頼の、本
学会から同研究所の全国共同利用・共同研究
拠点設置要望書 (案) 内容につき審議に付し、
承認が得られた。

平成 29 年度 日本地域学会 第 8 回理事会

日時：平成 29 年 12 月 17 日 (日) 12:00-14:
00

場所：学術総合センター会議室 tel: 03-4212-
6321

1 階会議室 特別会議室 102・103

出席者：細江、石橋、内田、鐘ヶ江、木南(莉)、
國光、櫻井、渋谷、鈴木、多和田、徳永、中山、
野崎、氷鮑、松本、水野谷、宮田の各理事 (た
だし、浅見、阿部、近藤、佐々木、高橋、戸田、
萩原、福井、三友、柳原、吉田の各理事より委
任状付託；以上理事 28 名出席)；藪田監事；
オブザーバとして臼井、河野、藤岡、三橋の各顧
問、酒井顧問兼学会賞選考委員長；森岡、黛、
小川の各幹事；佐橋、川本事務局秘書

議題

1. H29-5 理事会議事録の確認

異議なく確認された。

2. H29 総会議事録の確認

異議なく確認された。

3. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より、個人会員
(2 名) の入会希望と個人会員 (3 名) の退
会希望があった旨報告があり、これを審議し
た結果、総会に諮る事を諒承された。この結
果、正会員 1,047 名、法人会員 6 団体となっ
た。これを諒承。

4. 第 54 回年次大会会計報告

鐘ヶ江理事より報告があり、これを諒承。

5. 第 55 回 (2018 年) 年次大会準備委員会の構
成

鈴木第 55 回 (2018 年) 年次大会準備委員
会委員長より準備委員会の構成と準備状況
について報告があり、これを諒承。

6. PRSCO 理事の選出

渋谷理事より、理事の選出 4 名について
選出する必要がある旨説明があった。木南
理事、徳永理事、渋谷理事、鐘ヶ江理事を
推薦することが提案され、これを諒承。

7. 2021 年 PRSCO 大会の開催地について

渋谷理事より、日本での開催について検
討中である旨が報告された。鐘ヶ江理事か
ら立命館大学で検討中と説明があり、年大
会との同時開催については要検討。これを
諒承。

8. Asia-Pacific Journal of Regional Science
(APJRS) について

氷鮑理事より、1-2 号以降についての審査
状況の報告があった。またこの中で Survey
論文の必要性が提案された。以上諒承された。

9. 『地域学研究』セット販売の推進

水野谷総務担当常任理事より、セット販売
推進についての依頼があった。また、第 58
回機関誌編集委員会において、1 巻 2 号制と
なった第 47 巻より 2 冊セットで 8,000 円、
バラ売りの場合 6,000 円/冊とする方針が決
定された旨の報告があった。氷鮑理事より
バックナンバー一括販売については割引を
適用する旨の提案があり、これを諒承。具体
的価格については、今後検討を行う。

10. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

細江会長より新入会員勧誘キャンペーンの推進について説明があり、これを諒承。

11. その他

河野顧問より機関誌ストックの保管経費支払いについての提案があり、相談していただくことを諒承。

報告事項

1. 平成 29 年度理事会(持ち回り)第 6 回, 7 回
細江会長より持ち回りによって実施した(持ち回り)第 6 回, 7 回理事会に関して報告があった。

2. 第 3 回学会賞優秀発表賞選考委員会報告

酒井委員長より、著作賞・奨励賞・功績賞の推薦を求める旨の説明があった。

第 3 回学会賞選考委員会について報告があり、5 名の候補から最優秀発表賞を決める予定の説明がされた。

3. 『地域学研究』第 47 巻及び 48 巻の編集

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』47 巻および 48 巻の掲載候補論文の選考、書評やシンポジウム報告記事の取り組み、刊行進捗状況について報告があった。

4. RSAI の動向

渋澤理事より、RSAI の動向について報告があった。世界大会が 2018 年 5 月にインドゴアで開催される。また新たに木南莉莉理事、鐘ヶ江理事を RSAI 理事に推薦することが提案され、これを諒承。(徳永理事、木南理事、鐘ヶ江理事、渋澤理事 計 4 名)

5. PRSCO の動向

渋澤理事より、PRSCO の動向について報告があった。2018 年 7 月 4 日～6 日にペルー、2020 年 2 月米国ハワイ州オアフ島、2020 年 7 月にベトナム、2021 年は日本、2022 年はフィリピンを検討中。

6. その他

臼井名誉会員推薦委員長より、名誉会員の推薦については、今後該当者の推薦を募集していく旨の報告があった。

V. 委員会報告

1. 優秀発表賞選考委員会

優秀発表賞選考委員会(委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授)では、第 54 回年次大会での発表を対象とした慎重な審議により、下記の会員の方々に平成 29 年度日本地域学会学会賞優秀発表賞を授与する事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での審議は継続しており、今後、今回の優秀発表賞受賞者の中から 1 名の最優秀発表賞受賞者が決定される予定です。最優秀発表賞の授与式は、本年の年次大会(北海学園大学)で執り行われる予定です。

優秀発表賞:

中山 拓 (名古屋大学)

主題: 公教育の生産性が地域間で異なる下での地方分権(中央集権)における人的資本蓄積

花岡 峻太 (豊橋技術科学大学)

主題: 愛知県における津波経済被害とレジリエンスのシミュレーション分析

Haruka YANE (Osaka University)

主題: Labor Skills and Backward Linkages
Naranbat NASANJARGAL (University of Tsukuba)

主題: Developing the management policy to decrease air pollution in Ulaanbaatar city using solar energy utilization system

高尾 美鈴 (中央大学)

主題: 共分散構造分析を用いた消費者間の異質性に関する分析-エコツーリストの行動について-

2. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第 58 回機関誌編集委員会

日時: 平成 29 年 12 月 17 日 (日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 松本, 木南, 氷鮑, 石橋, 木南(莉), 酒井, 櫻井, 渋澤, 鈴木, 徳永, 藤岡, 細江, 水野谷, 鐘ヶ江の各編集委員 (ただし

浅見，高橋，戸田，野崎，三友，柳原，吉田，阿部委員より委任状付託）。オブザーバとして内田理事，小川，森岡，黛の各幹事，佐橋事務局秘書，川本事務局秘書

議題

1) 第 57 回議事録の確認

特に異議なく了承された。

2) 『地域学研究』第 47 巻，第 48 巻掲載候補論文の選考

第 54 回年次大会の発表論文に対する座長評価に基づき，第 48 号掲載候補論文の選考が行われた。

3) 同上機関誌印刷方針

第 47 巻の発行状況・計画を確認するとともに，第 48 巻の印刷方針を決定した。

4) 『地域学研究』掲載のシンポジウム報告の内容，ページ数について

今回を除いて次回から 5 頁前後を申し合わせ事前通知することとした。

5) 『地域学研究』バックナンバー単価設定について（年間発行巻数変更に伴い）

1 巻 2 号制の第 47 巻より 2 冊セットで 8,000 円，バラ売りの場合 6,000 円/冊とする方針が決定された。

6) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

投稿状況，編集方針，出版スケジュール等について確認を行った。Shared Link の各種権限とその制限に関する説明がなされた。

7) Scopus の登録申請について

Elsevier の Scopus に登録申請を行うことが決定された。

8) JDreamIII 著者抄録の一般公開について

JDreamIII が段階的無料化されることの連絡及び著者抄録の継続使用についての依頼が JST よりあった旨，報告があり，これを諒承。

9) ORCID について

ORCID への将来的な対応に向けた説明と要検討課題が説明された。

VI. 会費納入のお願い

日本地域学会会員各位

日本地域学会

会長 細江 守紀

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。さて，早速ですが，同封致しました請求書の通り，日本地域学会平成 30 年度会費をご請求申し上げますので，

納入期限 平成 30 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様お願い申し上げます。

なお，預金口座引落しの手続きを平成 30 年 3 月 17 日までに完了された方には，平成 30 年 6 月 27 日に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。また，学生会員年会費の適用には学生証（写し）の提出が必要ですので，pdf か封書にて，学会事務局までお送りください。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが，事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう，かさねてお願い申し上げます。

敬具

1. 平成 30 年度日本地域学会会費等（適用期間限定）

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日－平成 31 年 3 月 31 日）

一般会員年会費 13,000 円

学生会員年会費 8,000 円

但し，これらの会費，購読料が適用されるのは，

a) 納入期限（平成 30 年 3 月末日）までに上記会費を納入された日本地域学会会員の方，

b) 平成 30 年 3 月 17 日までに預金口座引落しの手続きを完了された日本地域学会会員の方，または，

c) 4 月以降に校費（公費）から支出する事を希望し，納入期限（平成 30 年 3 月末日）までにそ

の旨、および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方、に限りますのでご注意ください。

2. 会費の期限内納入の特典

上記納入期限に遅れた場合には、会費関連の事務処理が煩雑となることを考慮して、日本地域学会理事会では、

- 1) 一般会員年会費として 14,000 円を請求する
 - 2) 学生会員年会費として 9,000 円を請求する
- という事を決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル（本文 PDF）として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購買者認証申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格（平成 30 年 4 月 1 日ー平成 31 年 3 月 31 日）は以下ようになります。

- 1) 学会正会員である個人 (Web 個人会員 A) 年会費 2,000 円
- 2) 学会非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年会費 5,000 円
- 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 A) 年会費 10,000 円
- 4) 本学非会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 B)* 年会費 40,000 円

* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。

4. RSAI（国際地域学会）への会員登録について

平成 23 年度から RSAI（国際地域学会）への会員登録の方法が変更になっております。従来より日本地域学会の会員は自動的に RSAI(国際地域学会) の会員として登録されておりましたが、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を軽減するため、会員情報を電子メールアドレスで管理する事になりました。したがって今後は、会費を納入する事に加え、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録することが必要となります。今後も引き続き RSAI (国際地域学会) の会員となることを希望される会員で、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録されていない方は、会費の納入に合わせて電子メールアドレスを事務局にお知らせください。また RSAI への電子メールアドレスの通知に同意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、お知らせください。

VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ

12th World Congress of the RSAI がインドゴアで、15th PRSCO Summer Institute 2018 がペルー リマで開催されます。

会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。

(1) 12th World Congress of the RSAI

会議名 : 12th World Congress of the RSAI

開催日 : 2018 年 5 月 29 日(火)~6 月 1 日(金)

開催地 : Goa, India

会場 : Birla Institute of Technology & Science: the K K Birla Goa Campus

* 特別セッション及び一般セッションアブストラクトの受付は既に締め切られました。大会ホームページ :

<http://www.regionalscience.org/2018worldcongress/index.html>

(2) 15th PRSCO Summer Institute 2018

開催日:2018年7月4日(水)~6日(金)

開催地:Lima, Perú

会場:Pontificia Universidad Católica del Perú

大会ホームページ:

<http://summerinstitute2018.org/en/>

VIII. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も第27回日本地域学会学会賞授賞選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域科学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域科学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多大である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞: 地域科学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多大である著作物を表彰する。

学位論文賞: 本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞: 年次大会においてすぐれた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第27回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

◇応募期限:

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞

平成30年4月3日(火)(事務局必着)

2) 優秀発表賞

平成30年5月31日(木)(年次大会発表申し込みと同時に、事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。専用の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格: 推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等:

1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去2年間(暦年)に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (Studies in Regional Science)』および Papers in Regional Science of the RSAI に掲載されている論文であることが条件です。

2) 奨励賞の応募については、年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時35才未満であった事が必要です。

3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去2年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後3年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表しているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお、年齢による制限はありません。

5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。①授賞対象となる論文発表の年度末において30歳以下である会員、②授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、③年次大会の Early-bird Session (アー

リー・バードセッション) で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。更にはいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法: 「日本地域学会学会賞(奨励賞・論文賞・功績賞)に関する規程」, 「日本地域学会著作賞に関する規程」, 「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」, 「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第、受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第 55 回年次大会における総会(平成 30 年 10 月 北海学園大学)にて執り行います。最優秀発表賞については、翌年の年次大会で執り行います。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については、年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

IX. 会員の移動

新入会員

正会員 43 名

赤尾 聡史(同志社大学理工学部准教授)

荒木 浩太郎(和歌山大学システム工学研究科)

井上 夕葵(立命館大学大学院政策科学研究科博士後期課程学生)

坂本 寛司(豊橋技術科学大学建築都市・システム学専攻)

大貝 健二(北海学園大学経済学部)

岡田 穰(専修大学商学部准教授)

岡部 有美子(インスティテュート・コミュニケーター・デザイン)

小野 聡(立命館大学政策科学科任期制教授)

加藤 譲(一般財団法人日本立地センター)

北野 義幸(公財)千里ライフサイエンス振興財団専務理事)

小泉 達治(農林水産省農林水産政策研究所)

篠原 聡兵衛(株)KDDI 総合研究所 フューチャ

ーデザイン1部門4グループ グループリーダー)

須田 孝徳(苫小牧工業高等専門学校)

須内 康史(国際協力銀行)

高尾 美鈴(中央大学大学院経済学部研究科)

高島 伸幸(九州大学大学院経済学研究院)

高安 雄一(大東文化大学経済学部)

竹内 紀人(一般財団法人青森地域社会研究所)

田中 良賢(富山県立大学大学院工学研究科)

谷口 晋一(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程学生)

朝 格図(立正大学経済学研究科)

寺西 たから(東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程学生)

長宗 武司(岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程学生)

野崎 竜太郎(久留米大学経済学部)

服部 孝政(立命館大学経済学部学生)

花岡 峻太(豊橋技術科学大学建築都市・システム学専攻)

松嶋 啓介(公益財団法人九州経済調査協会)

松村 俊英(ジャパンシステム株式会社)

道浦 貴大(和歌山大学システム工学研究科)

山口(蔵下) 尚孝(国立行政法人国際協力機構)

李 靖怡(立正大学経済学研究科博士課程学生)

Antoine Sylvain Bailly (Honorary Professor, University of Geneva)

Amitrajeet Amarnath Batabyal (Arthur J. Gosnell Professor of Economics, Rochester Institute of Technology)

Arifur Md Rahman (立命館大学大学院経済学研究科博士後期課程学生)

KHINSAMONE SOUKVISAN (埼玉大学人文社会科学研究科)

Shirley D. KOSHIBA (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)

Md Zia UDDIN (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)

Baldanov Andorey (新潟大学自然科学研究科)

NARANBAT Nasanjargal (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)

Marly Valenti Patandianan (豊橋技術科学大学)
Safuwani bin Alias MOHAMAD (筑波大学生命
環境科学研究科環境科学専攻)
Zulfadrim (立命館大学大学院政策科学研究科)
Sari, Kartika Puspita (立命館大学大学院政策
科学研究科博士後期課程)

Benson Igesa SENELWA
Abiemo Jerome
Tim Min Htoo
Begum Swapna

退会会員
正会員 38名
有山 道夫
于 宏
植田 和弘
氏家 晃仁
大住 圭介
金内雅人
兼子 良夫
栗原 真維
黒田 彰三
酒井 隆志
里吉 のり子
塩野 眞美
宍戸 駿太郎
霜鳥 知行
瀬古 美喜
高橋 尚人
武市 三智子
竹内 佑一
田代 藍
建井 順子
谷垣 雅之
谷口 仁士
中村 治
羽田 裕
原田 博夫
武 樟
松尾 優子
美濃 陽介
山本 佳世子
百合本 茂
Duong Thuy Pham

会員数
個人会員 1047名
法人会員 6団体

『地域学研究』バックナンバー/ 定期購読申込書

宛先: 筑波大学生命環境系水野谷研究室内
〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1
tel +81-29-853-7221 (fax)

日本地域学会事務局 御中

日本地域学会機関誌の定期購読を申込みます (8,000 円/年)。(PRINT ISSN: 0287-6256)

下記のとおり、日本地域学会機関誌のバックナンバーを申込みます。

平成 年 月 日 氏名: 印
所属:
住所:
電話, fax:
E-mail:

記念事業セット販売					※
フルセット:『地域学会年報(1-6号)』+『地域学研究(第1-40巻)』				450,000円	
セミセット:『地域学研究(第1-40巻)』				400,000円	
				小計	円
『地域学会年報』(第1-6号)					
1号 10,300円		2号 10,300円		3号 10,300円	
4号 10,300円		5号 10,300円		6号 10,300円	
『地域学研究』(第1-19巻)					
第1巻 8,000円		第2巻 8,000円		第3巻 8,000円	
第4巻 8,000円		第5巻 8,000円		第6巻 8,000円	
第7巻 8,000円		第8巻 8,000円		第9巻 8,000円	
第10巻 8,000円		第11巻 10,000円		第12巻 10,000円	
第13巻 8,000円		第14巻 8,000円		第15巻 10,000円	
第16巻 8,000円		第17巻 10,000円		第18巻 10,000円	
第19巻 9,400円					
『地域学研究』(第20-28巻)no.1,no.2					
第20巻no.1 9,000円		第20巻no.2 3,500円		第21巻no.1 10,000円	
第21巻no.2 3,500円		第22巻no.1 10,000円		第22巻no.2 3,500円	
第23巻no.1 10,000円		第23巻no.2 3,500円		第24巻no.1 10,000円	
第24巻no.2 3,500円		第25巻no.1 10,000円		第25巻no.2 3,500円	
第26巻no.1 10,000円		第26巻no.2 3,500円		第27巻no.1 10,000円	
第27巻no.2 3,500円		第28巻no.1 10,000円		第28巻no.2 3,500円	
『地域学研究』(第29巻-)no.1,no.2,no.3					
第29巻no.1 7,000円		第29巻no.2 3,500円		第29巻no.3 7,000円	
第30巻no.1 7,000円		第30巻no.2 3,500円		第30巻no.3 7,000円	
第31巻no.1 7,000円		第31巻no.2 3,500円		第31巻no.3 7,000円	
第32巻no.1 7,000円		第32巻no.2 3,500円		第32巻no.3 7,000円	
第33巻no.1 7,000円		第33巻no.2 3,500円		第33巻no.3 7,000円	
第34巻no.1 7,000円		第34巻no.2 3,500円		第34巻no.3 7,000円	
『地域学研究』(第35巻-)1ボリューム4冊一括販売 16,000円; 8,000円/冊					
第35巻no.1		第35巻no.2		第35巻no.3	
第36巻no.1		第36巻no.2		第36巻no.3	
第37巻no.1		第37巻no.2		第37巻no.3	
第38巻no.1		第38巻no.2		第38巻no.3	
第39巻no.1		第39巻no.2		第39巻no.3	
第40巻no.1		第40巻no.2		第40巻no.3	
第41巻no.1		第41巻no.2		第41巻no.3	
第42巻no.1		第42巻no.2		第42巻no.3	
第43巻no.1		第43巻no.2		第43巻no.3	
第44巻no.1		第44巻no.2		第44巻no.3	
第45巻no.1		第45巻no.2		第45巻no.3	
第46巻no.1		第46巻no.2		第46巻no.3	
『地域学研究』(第47巻-)1ボリューム2冊一括販売 8,000円; 6,000円/冊					
第47巻no.1		第47巻no.2			

購入総額合計 _____ 円

※ 申込該当箇所には○をする。□にはチェックする。

機関購入の場合は、氏名、所属に見積り、納品、請求書宛名機関名等を記入、責任者押印 以上

平成 29 年 12 月 17 日改定

日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会
会長 細江 守紀 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

氏名： 印

記

ふりがな			年 月 日生	歳 ※男・女
氏名			同英文 (last name, first name)	
所属先	機関名			同英文
		(年 月より)		
	所属			同英文
	職名			同英文
	所在地	〒		同英文
	電話： ()		fax: ()	
e-mail				
自宅	住所	〒 配送希望先 ※勤務先・自宅		同英文
		電話： ()		fax: ()
	e-mail			
学歴	年 月入学			
	年 月※卒業・修了・満期退学			
職歴	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
専門分野	専攻：			学位： (大学)
	<i>Regional Science Association International (RSAI)</i> の研究領域分類 (複数回答可, 入会案内参照)			
	I. ISSUE ORIENTATION		II. THEORETICAL/METHOD-LOGICAL ORIENTATION	
	III. MODE OF ANALYSIS		IV. REGIONAL FOCUS	
所属他学会				
紹介者 (会員に限る)				印

以上 (※は該当項目に○をする)

事務局記入欄	入会承認	年 月 日 第 回理事会	退会承認	年 月 日 第 回理事会
--------	------	--------------	------	--------------

MEMO

MEMO